

第 7 回 (通算第 13 回) 八大学工学部長会議 議事録 (案)

日 時 平成 30 年 4 月 20 日 (金) 10:00~12:30

場 所 KKR 東京 11F 朱鷺の間

出席者 (北大)増田隆夫 工学部長、(東北大)長坂徹也 工学部長、(東大)大久保達也 工学部長、(東工大)岩附信行 工学院院长、(名大)水谷法美 工学部長、(京大)大嶋正裕 工学部長、(阪大)田中敏宏 工学部長、(阪大)狩野裕 基礎工学部長、(九大)久枝良雄 工学部長

陪席者 (東北大・工学部)安藤晃 副研究科長、(東大・工学系・情報理工学系事務部)稲垣博明 事務部長、平野裕士 総務課長、鈴木俊祐 総務チーム係長、(名大・工学部・工学研究科事務部)大矢淳一 事務部長、山田朋子 総務課長、成田吉伸 総務係長、(京大・桂地区(工学研究科)事務部)疋田覚 事務部長、岡田幸美 総務課長、(阪大・工学部)服部圭一 総務課長、村上雅彦 総務課長補佐、前原忠信 庶務係長、(九大・工学部等事務部)川崎輝之 事務部長、小田正俊 総務課長、(東大・新領域創成科学研究科事務部)清水正一 副事務長、岡部友紀 総務係長

事務局 石原 直 事務局長、安尾千恵子 事務局員

注 記 工学部長会議の回数は、一般社団法人として第 7 回、連合会として通算第 13 回となる。

議 題

1. 報告事項

- (1) 前回議事録確認
- (2) 運営委員会活動報告
- (3) 工学系教育改革の検討状況について
- (4) 産業界との人材育成に関する意見交換について
- (5) 工学教育に関する国際交流について

2. 協議事項

- (1) 博士フォーラムの実施報告と今後の進め方について
- (2) 八大学からの平成 29 年度提言と今後の進め方について
- (3) 工学系教育改革への今後の対応について

3. その他

- (1) 今後の予定について

配布資料一覧

資料1 第 6 回(通算第 12 回)八大学工学部長会議議事録(案)

資料2 平成 29 年度第 2 回運営委員会議事録(案)

資料3 工学系教育改革制度設計等に関する懇談会取りまとめ (文科省)

資料4 JRJA との意見交換会の実施報告

資料5 Asian Engineering Deans' Summit (AEDS2018) (東工大・東大)

資料6 6th UK-Japan Engineering Education-League Workshop (九大・東工大)

資料7 平成 29 年度博士フォーラム実施報告 (東北大)

資料8 提言「高度工学系人材育成への産業界の参画と支援 (案)」

資料9 八大学工学系連合会の会長校・幹事校について (参考)

議事要旨

開会の辞

定款施行細則第4条の4及び第20条に基づいて会長から議長に指名された阪大・田中工学部長より、第7回八大学工学部長会議の開会に当たって挨拶があった。

会議日程及び資料確認

事務局より会議日程の説明、及び配布資料の確認が行われた。

出席者紹介・自己紹介

田中議長より出席者が紹介され、出席者全員から自己紹介があった。

1. 報告事項

(1) 前回議事録(案)確認(資料1)

資料1により、昨年9月28日に福岡にて開催した第6回(通算第12回)八大学工学部長会議議事録(案)を確認の上、承認した。

(2) 運営委員会活動報告(資料2)

田中議長から資料2に基づき、昨年12月5日に開催した平成29年度第2回運営委員会の議事の報告が行われ、本日のこれからの議論の参考にされたい旨、紹介があった。

(3) 工学系教育改革の検討状況について(資料3)

田中議長より、一昨年夏より継続してきた文部科学省高等教育局専門教育課と八大学工学部長会議との「大学における工学教育の在り方」をテーマとする意見交換の経緯、およびこの間に文科省が検討会や懇談会での審議を通して立案してきた「工学系教育改革に関する取りまとめ」(資料3はこの3月末に公表された取りまとめ資料)の内容について説明があった。これらの「工学系教育改革への今後の対応」については、後の協議事項(3)で議論することとした。

(4) 産業界との人材育成に関する意見交換について(資料4-1, 4-2)

田中議長から資料4に基づいて、一般社団法人研究産業・産業技術振興協会(JRIA)との間の意見交換会の平成29年度後期実施分についての報告があった。まず、資料4-1を用いて昨年11月29日に「学生の就職活動」をテーマに行った意見交換会の状況が報告され、「大学、産業界ともに困った状況との認識は共有しているものの解決策は簡単には見つからない状況である」などの議論があった。

また、資料4-2に基づいて、先の3月14日に今年度の八大学からの提言「高度工学系人材育成への企業の参画と支援(案)」を話題に行った意見交換の状況が報告され、「回数を重ねて具体的な議論が出来るようになってきたので、引き続き産業界と意見交換は進めるのが良い」などのコメントがあった。なお、意見交換を行う相手先の拡大や何らかの具体的アクションにつながる様な対話の進め方について検討することとなった。

(5) 工学教育に関する国際交流について(資料5、資料6)

田中議長から今年度は2件の国際会合が計画されていて連合会はそれらに協賛することが紹介され、それぞれについて担当の大学より説明と参加案内があった。

まず、資料5に基づいて、東工大・岩附工学院院长と東大・大久保工学部長より、来る5月21日

～23日に東工大・大岡山キャンパスで開催する The 8th Asian Engineering Dean's Summit AEDS2018の説明があった。本サミットのアレンジはほぼ出来上がっており、八大学工学系連合会メンバーも多く参加したプログラム(案)が紹介された。また、この機会を利用して、昨年からのコンタクトのあるオーストラリア Group of Eight (Go8)とのミーティングを検討中であることが紹介され、これら国際交流への八大学の対応について議論を行った。

次に、資料6に基づいて、東工大・岩附工学院院长より、これまで東工大が担当して開催してきた日英工学教育ワークショップについて今年度は九州大学が開催するとの紹介があり、九大・久枝工学部長より9月3日～5日に九州大学・西新プラザで開催予定の6th UK-Japan Engineering Education-League Workshopの実施計画が説明された。各大学はワークショップへの教員、博士課程学生の参加を検討することとした。

2. 協議事項

(1) 博士フォーラムの実施報告と今後の進め方について(資料7)

幹事校を務めた東北大・長坂工学部長から資料7に基づき、昨年11月24日に東北大学青葉山東キャンパスで開催した「博士フォーラム」の実施報告があった。フォーラムに参加したメンバーのコメントも含めて、以下のような議論があった。

- ・ 博士学生に自己のキャリア設計を意識させることが重要である。
- ・ 国際環境に置かれることにより「学位の重要性」に気づく場合が多い。
- ・ 海外経験を義務付けている大学もある。
- ・ 課程博士と社会人博士で質保証が同じでよいか検討が必要だろう。
- ・ 博士学生の経済的支援について、各大学の資金確保と支援の現状、RA制度運用上の留意事項などについて情報交換を行った。

ここで、今年度の幹事校を名大から東大に交代する案が了承され、以上の議論も参考に今年度は東大が博士フォーラムを企画、実施することとなった。

(2) 八大学からの平成29年度提言と今後の進め方について(資料8)

田中議長より今回の提言の作成経緯と内容概要の説明があった。昨年春の工学部長会議での「5件程度まで個別テーマで提言を作っていく」という申し合わせに基づいて、7月の第1回運営委員会にて新美委員長から「工学教育への企業の参画・支援」を提案、提言ドラフトを秋の常設会議で議論、一次案作成、12月の第2回運営委員会で議論、年が明けてJRIAとの意見交換会という手続きを経て、資料8が提案されている。今回の提言は、本文に基本コンセプト、背景、提言項目という八大学共通事項を記述し、参考資料として「各大学の企業と連携した工学教育の事例紹介」を添付するという構成になっている。今後は、まず、午後の研究科長等会議に説明して承認をもらい、5月に文部記者会に投げ込みとホームページ・アップにより「公表」して、その後は機会を捉えて対外的な意見交換などのフォローアップを進めることとした。

なお、今年度の提言テーマについて、入試の共通化など若干の意見交換の後、工学部長会議メンバーは思い付いた提言テーマを、第1回運営委員会(6月ころ開催)までに水谷委員長に提案することとした。

(3) 工学系教育改革への今後の対応について

報告事項(3)で残してあった協議事項(3)について、昼食後に時間を取って以下の議論を行った。

- ・ 資料3のポイントは1) 学科・専攻定員の柔軟化、2) 工学基礎教育の強化、3) 学部・大学院連結教育プログラム、4) 産業との教員人事交流など連携強化の4項目であり、各大学の実情に合わせて個別に対応することとする。
- ・ 八大学が目指す「高いレベルでの工学教育（要望書に記載）」の実現に向けた検討は継続して推進する。その元案として、前工学部長会議と北大が描いた「連携（アカデミア、エンジニアリング、モノにこだわる卓越）大学院構想」についての検討を継続する。
- ・ 午後の研究科長等会議では、工学部長会議から「この教育改革は『出来る規程』であり『規制緩和』と考えられる」旨コメントするとともに、文科省の講演を通して工学系教育改革の現状と動向を認識してもらうこととした。

3. その他

(1) 今後の予定について（資料9）

今後の会議予定について資料9を参考に田中議長から、今年秋の幹事校が大阪大学、来年春の幹事校が東京工業大学であることが紹介された。

- ・ 次回の常設会議について、幹事校の阪大・田中工学部長から、9月28日（金）にメルパルク大阪にて開催予定である旨アナウンスがあった。
- ・ 次々回の常設会議の幹事校である東工大から、和田物質理工学院長に代わって岩附工学院院长より、来年4月19日（金）にKKRホテル東京にて開催とのアナウンスがあった。

次に、会長校について資料9を参考に田中議長から、平成30年度は名古屋大学の2年目となり、本日午後の定時社員総会で名大・新美先生が会長を退任し、代わって名大・水谷先生に会長に就任頂く予定であることが報告された。また、会長交代に伴うご挨拶は午後の研究科長等会議の最後とすることとした。

以上をもって第7回八大学工学部長会議を終了することを田中議長が宣言し、事務局長から、午後13時30分より第135回八大学工学関連研究科長等会議が開催される旨の案内があった。

以上